

# デジタル給与とプレミアム商品券に関する 消費者ニーズ調査結果

2021年4月5日

一般社団法人Fintech協会



調査形式	インターネット調査	
調査期間	2021年3月26日（金）～28日（日）	
対象者	地域	全国
	年齢	16才～60才
	就労状況	就労中かつ個人年収を持つ
	性別	男女

本調査は、一般社団法人Fintech協会の依頼にもとづき、株式会社インキュリオンが実施したものです。

# デジタル給与に関する 主要な結果

# 給与受け取りに関する不満

調査方法：インターネットリサーチ  
対象者：就労中で個人年収のある16才～60才の男女  
調査期間：2021年3月26日～28日  
有効回答数：1,035人

## 58%の人が現在の給与受け取り方法について不便を感じている

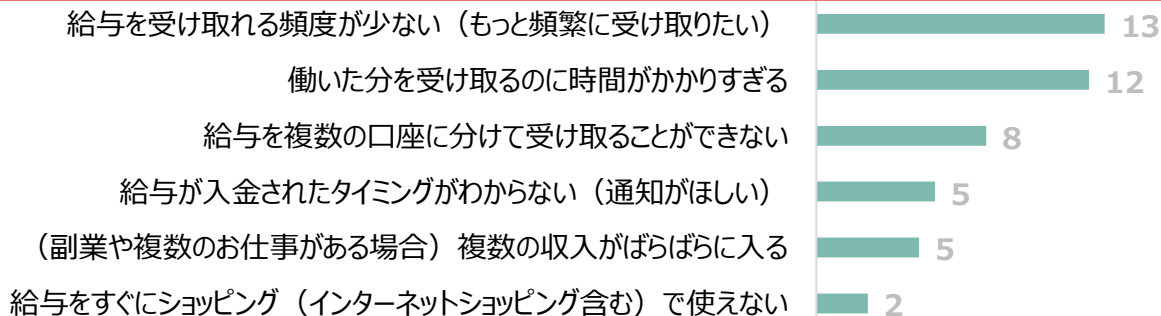
N=986（メインの仕事の給与を銀行振込みで受け取っている人）



### 具体的な不便さ N=568（不便を感じている人）、複数回答



現金化して利用する際の不便さが上位



硬直的な給与支給の不便さ

## (参考) 「デジタル給与受け取り (仮) 」の解説文

### 給与の新しい受け取り方についての質問です。

現在、給与の受け取り方は銀行口座のみが主流です。そんな中、QRコード決済アプリ・電子マネーを含むデジタルサービス業者が提供する口座においても、給与受け取りを可能にする「**デジタル給与受け取り (仮)**」の制度が検討されています。

「**デジタル給与受け取り (仮)**」では、もらった給与をアプリ経由で楽に利用できるようになるといわれています。

同じサービスを利用している友人や家族に送金する、そのまま買い物 (インターネットショッピング含む) に利用する、公共料金や税金を払ったりする、といった利用が可能になるといわれています。

ATMでの現金引き出しも可能です。

「**デジタル給与受け取り (仮)**」の口座は銀行口座ではないため、利息は付きません。業者によっては、給与口座に指定するとポイントを付けるなどの優遇策を導入することも考えられます。

働いた分の給与をすぐに受け取ることも可能になるといわれています。

# 「デジタル給与受け取り（仮）」の認知と印象

調査方法：インターネットリサーチ  
対象者：就労中で個人年収のある16才～60才の男女  
調査期間：2021年3月26日～28日  
有効回答数：1,035人

新制度の検討があることは22%の人が認知している N=1035（全員）

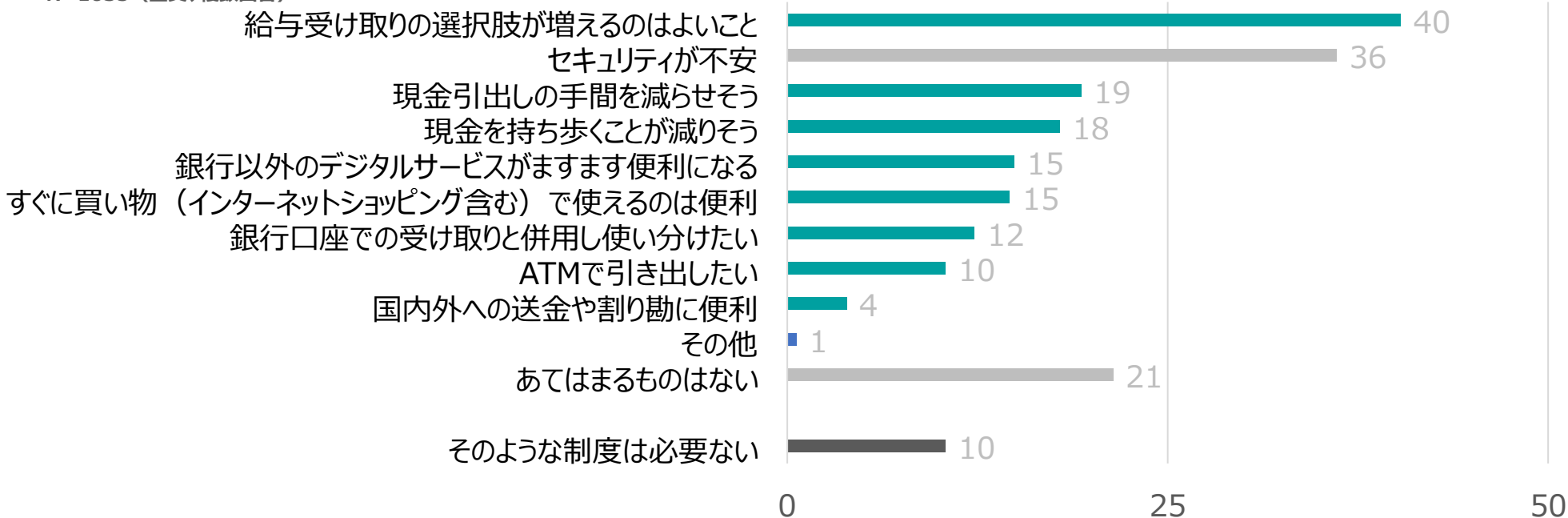


10%が「新制度は不要」と回答

40%の人が新たな給与受け取りの選択肢を歓迎するも、36%セキュリティに不安感

12%は銀行口座との併用に意欲

N=1035（全員、複数回答）

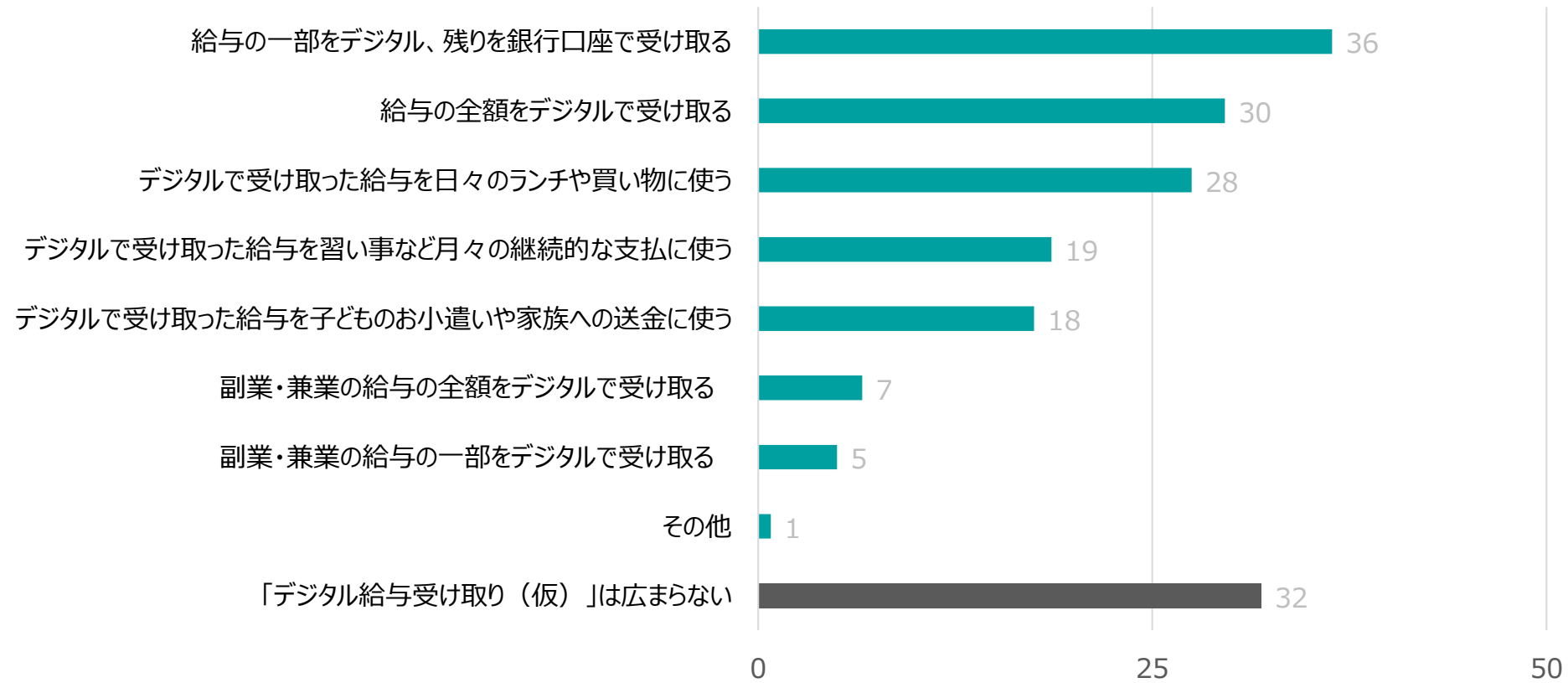


# 「デジタル給与払い（仮）」の世間一般での利用イメージ

調査方法：インターネットリサーチ  
対象者：就労中で個人年収のある16才～60才の男女  
調査期間：2021年3月26日～28日  
有効回答数：1,035人

もし「デジタル給与受け取り（仮）」が導入されると、どのような利用法が広まると思いますか。  
**世間一般で広まりそうな利用法を全てお答えください。**  
N=1035（全員、複数回答）

**利用が広まらないとの回答は32%にとどまり、大多数は利用普及すると予想した  
「銀行口座をメインとしながらの併用が広まる」との予想が36%でトップ**



# 「デジタル給与払い（仮）」の回答者自身の利用意欲

調査方法：インターネットリサーチ  
対象者：就労中で個人年収のある16才～60才の男女  
調査期間：2021年3月26日～28日  
有効回答数：1,035人

もし「デジタル給与受け取り（仮）」が導入されると、どのような利用法が広まると思いますか。

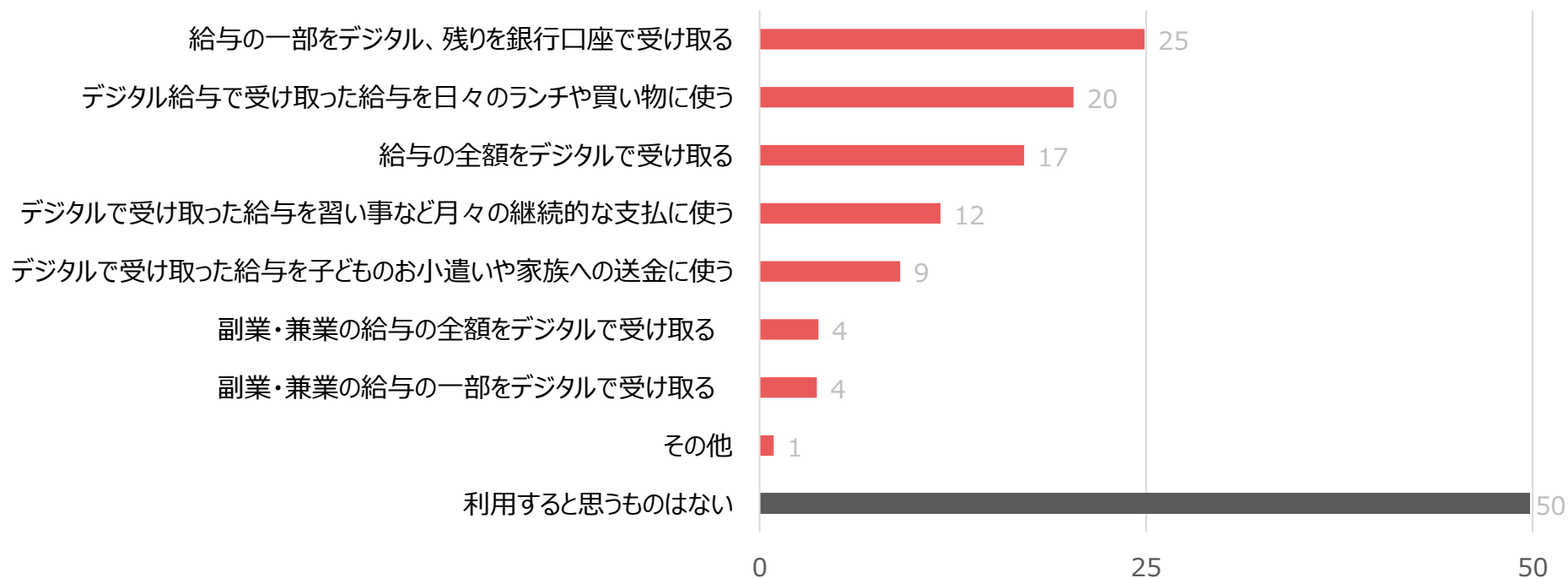
**あなた自身が利用すると思うものを全てお答えください。**

N=1035（全員、複数回答）

**25%は給与の一部を「デジタル給与受け取り（仮）」で受け取ると回答**

**17%は給与の全額のデジタル移行に意欲**

**設問の選択肢中に利用すると思うものはなかったのは全回答者の半数にとどまる**





# 給与の受け取りと利用

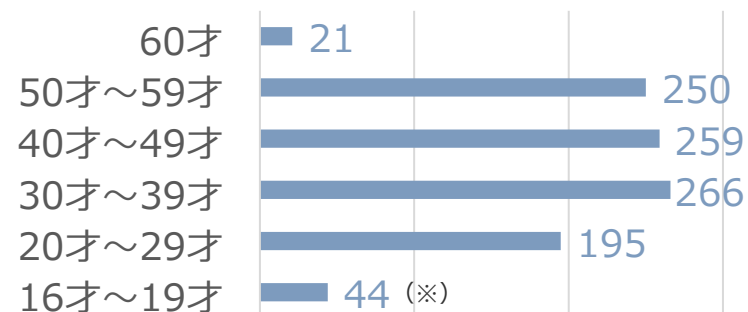
# 回答者基本属性

調査方法：インターネットリサーチ  
対象者：就労中で個人年収のある16才～60才の男女  
調査期間：2021年3月26日～28日  
有効回答数：1,035人

## 男女構成（%）

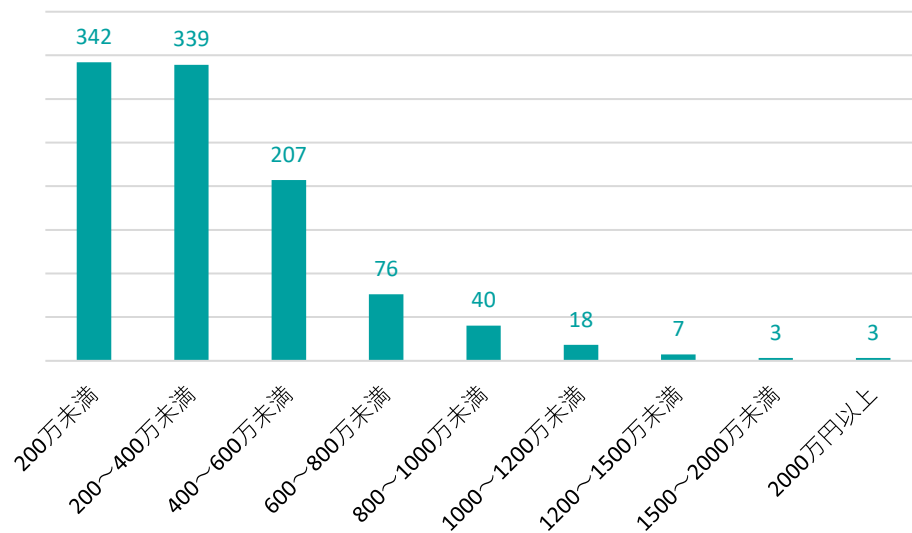


## 年齢構成（単位：人）



(※) 有効回答者44名全員が18才～19才

## 個人年収の分布（単位：人）



## 回答者の職業と兼業・副業の有無

職業	有効回答数	兼業・副業の有無	
		有	無
会社員	630人	28%	72%
パート・アルバイト	242人	33%	67%
自営業または自由業	70人	50%	50%
公務員	51人	27%	73%
経営者・役員	8人	38%	63%
その他	34人	21%	79%
全体	1035人	31%	69%

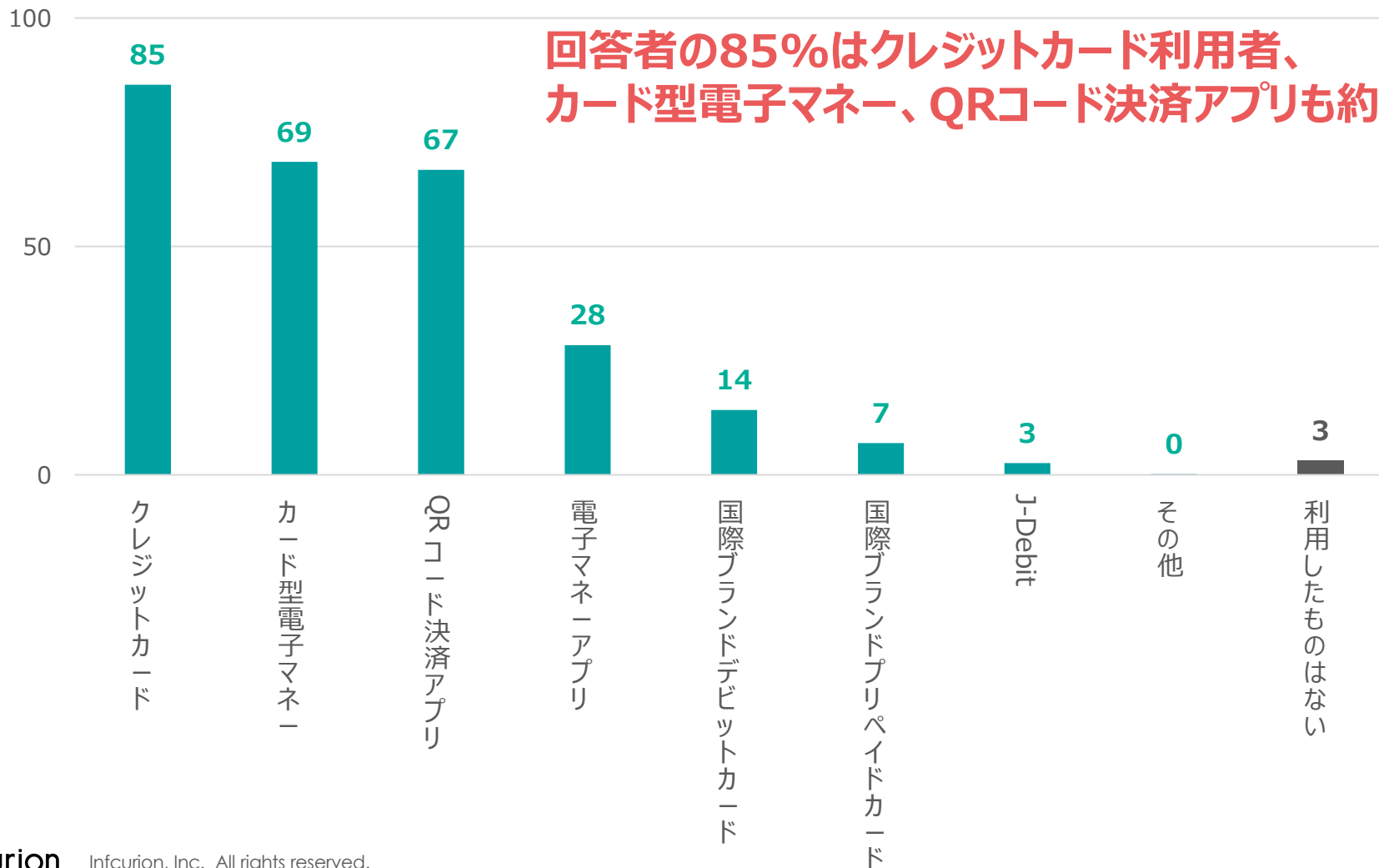
# 回答者のキャッシュレス決済利用状況

調査方法：インターネットリサーチ  
対象者：就労中で個人年収のある16才～60才の男女  
調査期間：2021年3月26日～28日  
有効回答数：1,035人

現金を使わずに支払いができる、クレジットカード・電子マネー・スマートフォンアプリなどのキャッシュレス決済サービスについてお聞きます。

直近1年間を振り返って、あなた自身が利用したことのあるキャッシュレス決済サービスをすべてお答えください。

N=1035（全員、複数回答）



回答者の85%はクレジットカード利用者、  
カード型電子マネー、QRコード決済アプリも約7割が利用

# キャッシュレス派と現金派

調査方法：インターネットリサーチ  
対象者：就労中で個人年収のある16才～60才の男女  
調査期間：2021年3月26日～28日  
有効回答数：1,035人

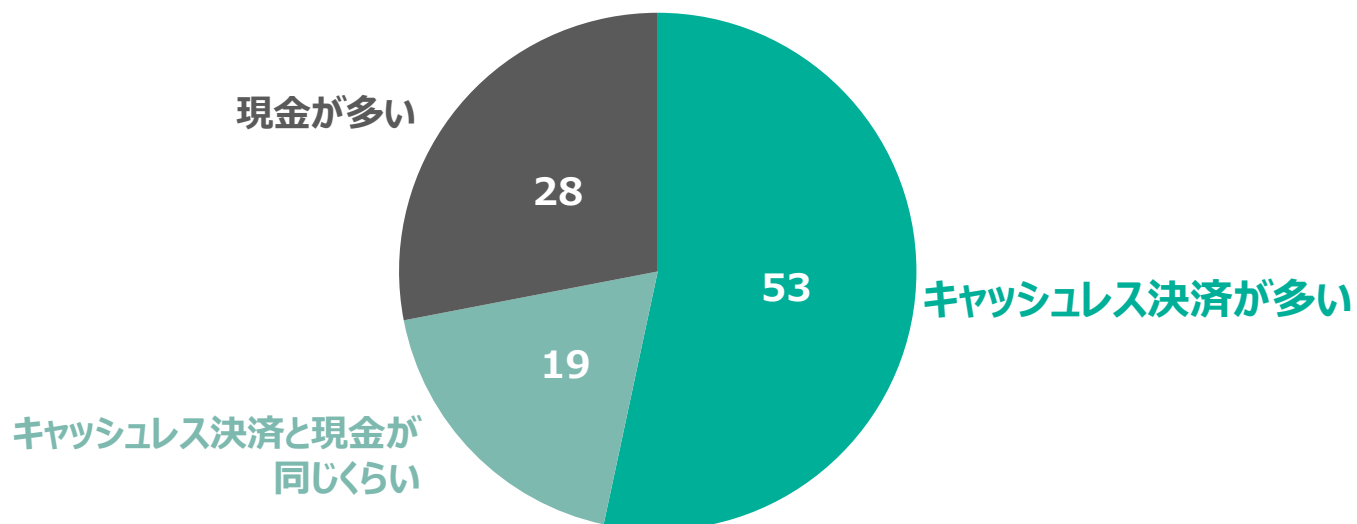
あなた自身がお金を払うとき、現金で払う回数と、現金以外のキャッシュレス決済（クレジットカード、電子マネー、スマートフォンアプリなど）で払う回数は、どちらが多いですか。直近1年間を振り返ってお答えください。

※お店だけでなく、病院や交通機関など、お金を払う様々な場面を含めてお答えください。

※インターネットショッピングは除きます。

N=1035（全員、複数回答）

**現金との併用も含めたキャッシュレス派が回答者の7割超  
現金派は3割**

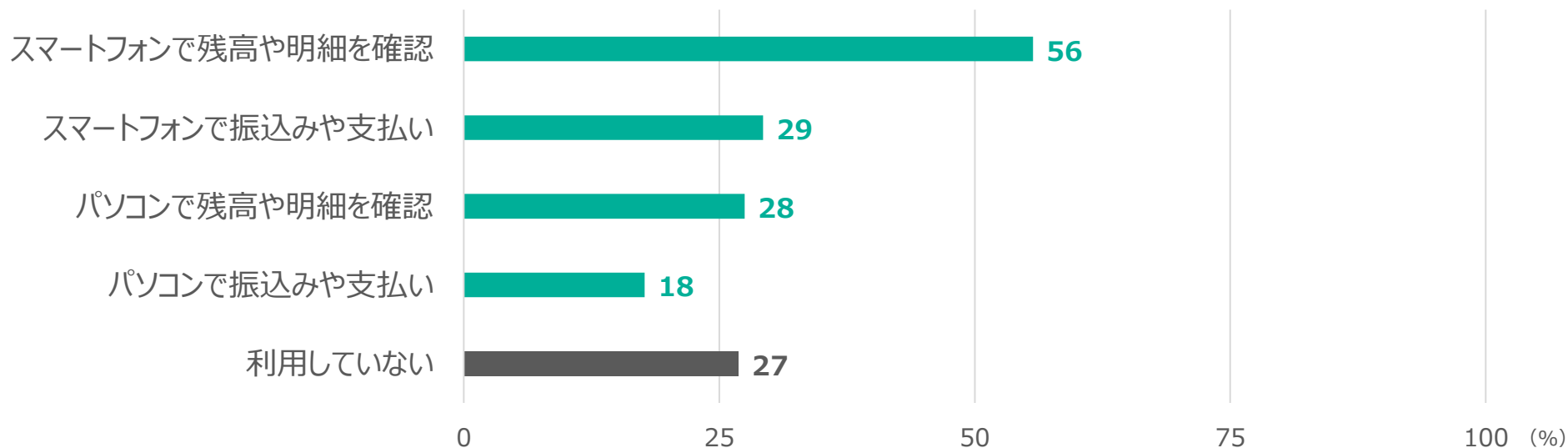


# ネットバンキング利用状況

調査方法：インターネットリサーチ  
対象者：就労中で個人年収のある16才～60才の男女  
調査期間：2021年3月26日～28日  
有効回答数：1,035人

あなたはスマートフォンまたはパソコンから銀行口座を利用することがありますか。  
直近1年間を振り返って、利用したことのあるものを全てお答えください。  
N=1035（全員、複数回答）

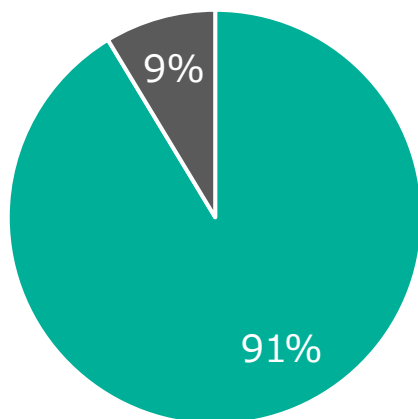
**ネットバンキング非利用者は27%、残る73%はネットバンキングを利用**  
**利用者においては、パソコンよりもスマートフォンからの利用が広く普及している**



調査方法：インターネットリサーチ  
対象者：就労中で個人年収のある16才～60才の男女  
調査期間：2021年3月26日～28日  
有効回答数：1,035人

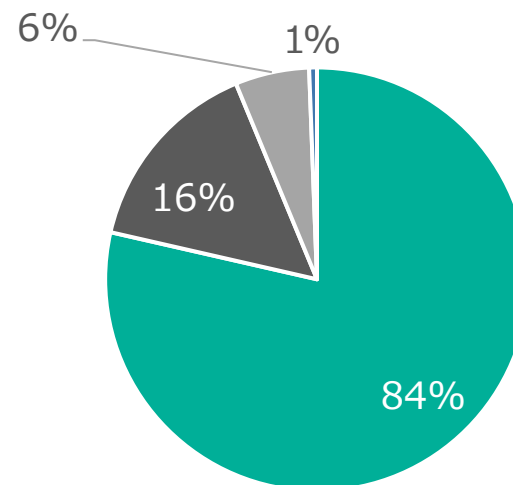
## メインの仕事の91%、兼業・副業の84%は銀行口座で給与受け取り

メインの仕事 (N=986)



■ 銀行口座振込み ■ 現金受け取り

兼業・副業 (N=316)



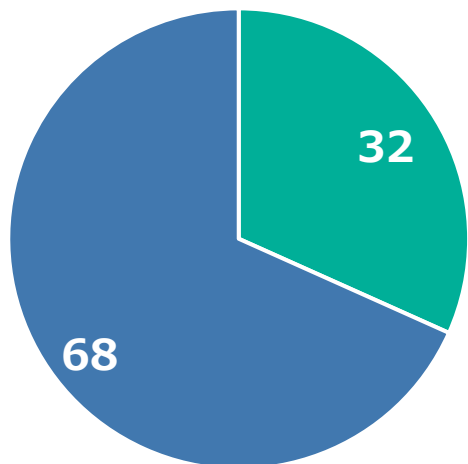
■ 銀行口座振込み ■ 現金受け取り ■ 証券口座振込み ■ それ以外

# 口座での給与受け取りの柔軟度

調査方法：インターネットリサーチ  
対象者：就労中で個人年収のある16才～60才の男女  
調査期間：2021年3月26日～28日  
有効回答数：1,035人

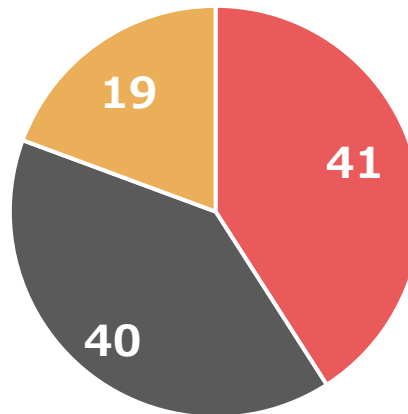
## 勤務先において複数口座での受け取りを指定可能なのは32%

N=897 (メインの仕事の給与が銀行振込みの人)



- 複数の口座を指定できる
- 1つだけ口座を指定できる

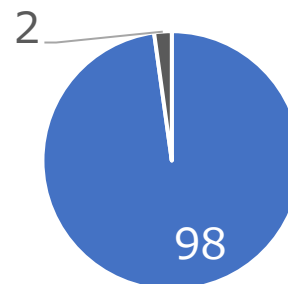
N=986 (メインの仕事がある人)



## 勤務先が金融機関や方法指定したケースが4割

- 自分が自由に金融機関や方法を指定した
- 勤務先が金融機関や方法を指定した
- 勤務先が指定した中から、自分が金融機関や方法を選んだ

N=918 (メインの仕事または兼業・副業で給与が銀行振込みの人)



## 98%が月に1度の給与支給を受けている

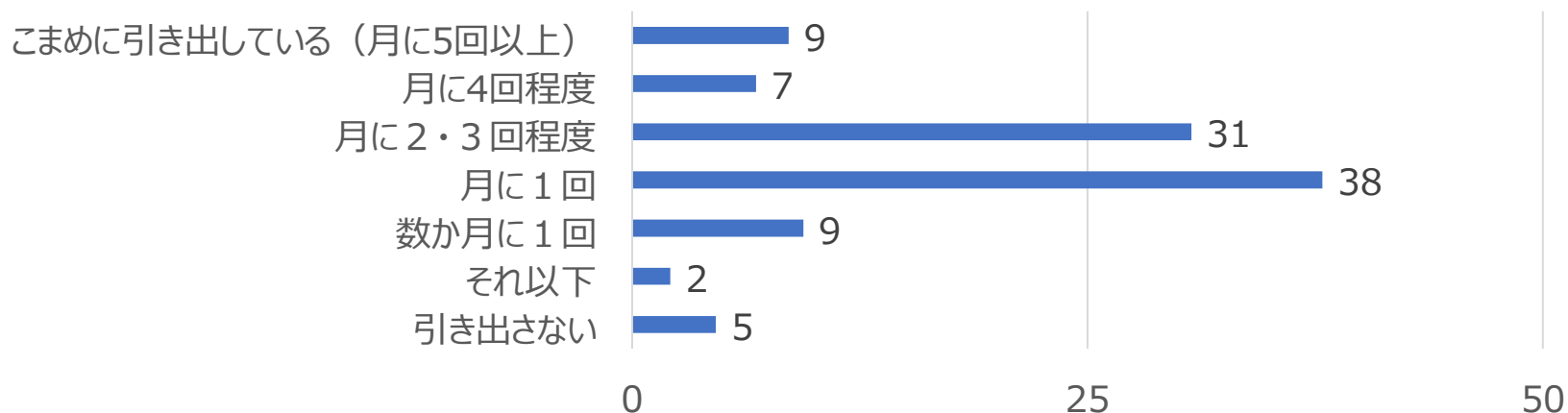
- 月に1度
- それ以外

# 給与口座からの現金引出頻度とタイミング

調査方法：インターネットリサーチ  
対象者：就労中で個人年収のある16才～60才の男女  
調査期間：2021年3月26日～28日  
有効回答数：1,035人

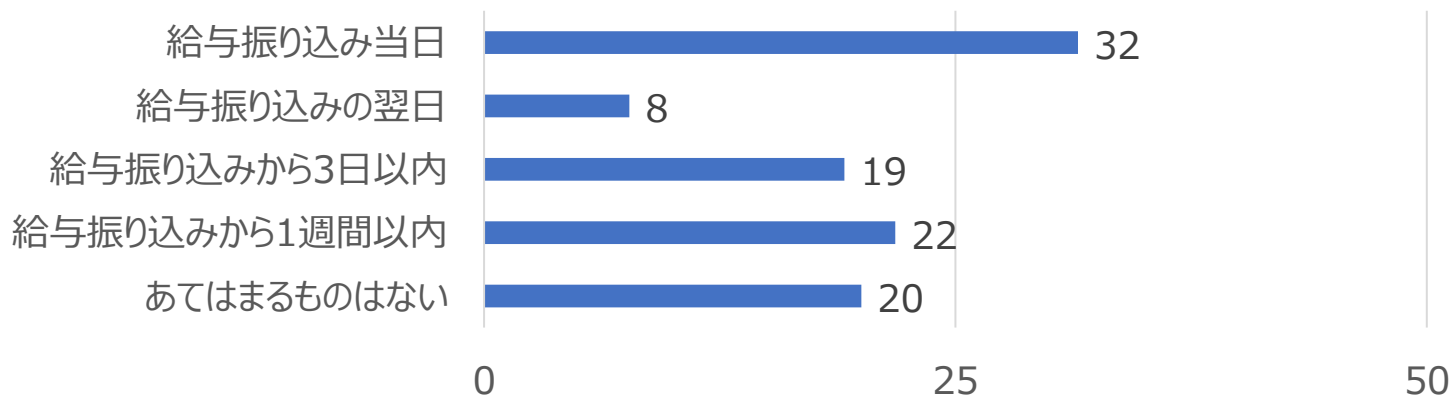
## 月に1回～3回程度現金を引き出す人が全体の約7割

N=918（メインの仕事または兼業・副業で給与が銀行振込みの人）



## 月1回以上給与口座から現金を引き出す人の32%は給与支給日当日に引き出す

N=771（月1回以上給与口座から現金を引き出す人）



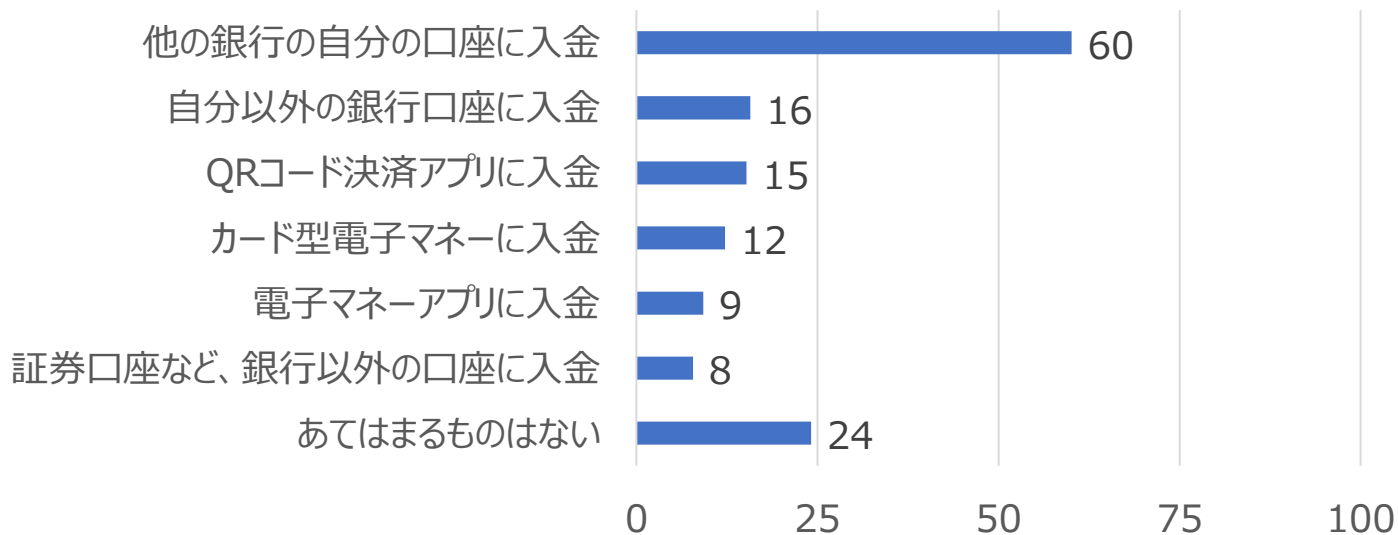


# 引き出した現金の他口座入金

調査方法：インターネットリサーチ  
対象者：就労中で個人年収のある16才～60才の男女  
調査期間：2021年3月26日～28日  
有効回答数：1,035人

あなたは、給与口座から引き出した現金を、他の口座に入金することがありますか。  
直近1年を振り返って、あてはまるものを全てお答えください。  
N=771（月1回以上、銀行口座から給与を現金で引き出す人）、複数回答

## 給与口座から引き出した現金を、他行口座に入金しなおす人が多数



# 給与口座の資金の利用方法（現金引出以外）

N=918（メインの仕事または兼業・副業で給与が銀行振込みの人）

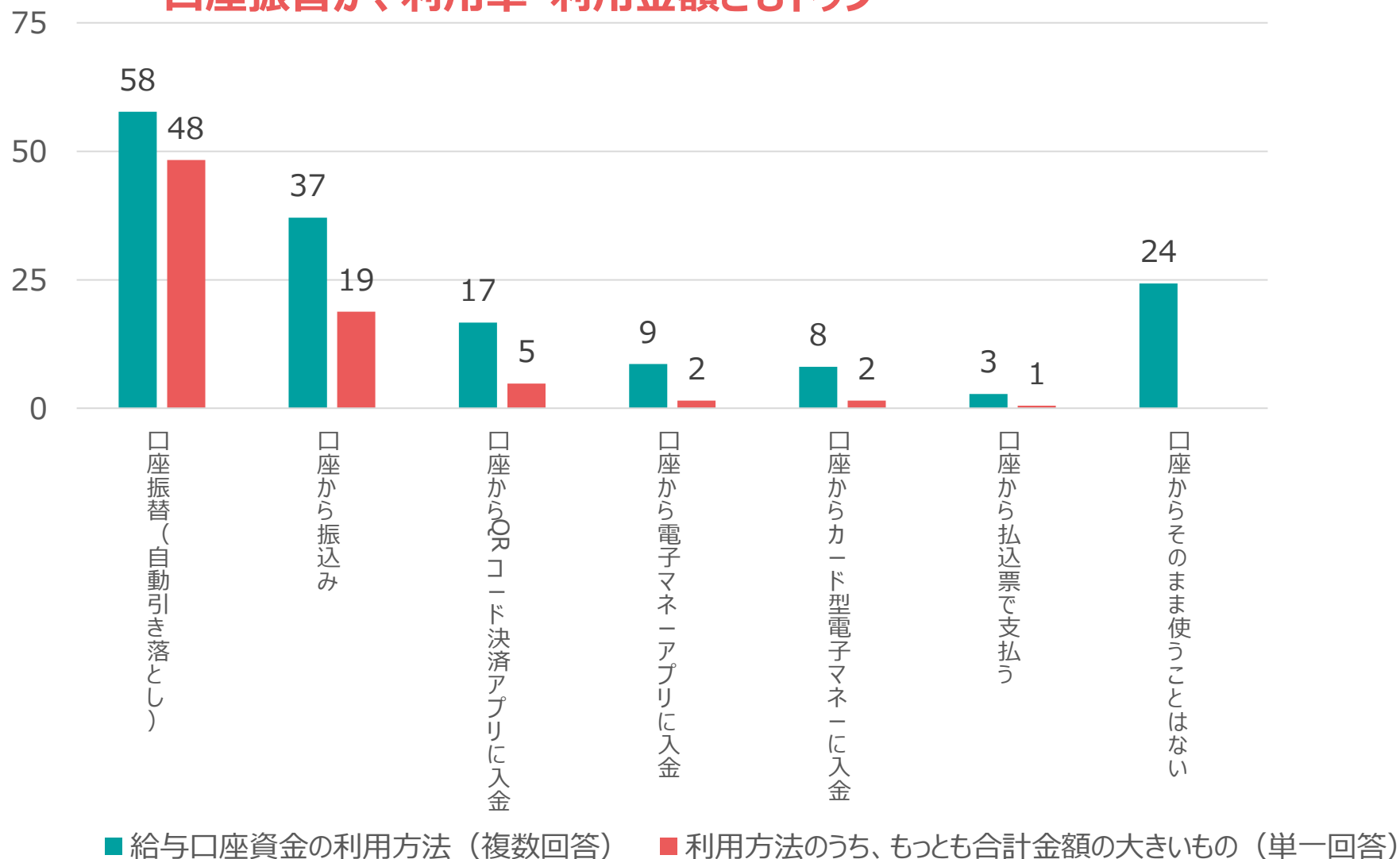
調査方法：インターネットリサーチ

対象者：就労中で個人年収のある16才～60才の男女

調査期間：2021年3月26日～28日

有効回答数：1,035人

## 口座振替が、利用率・利用金額ともトップ

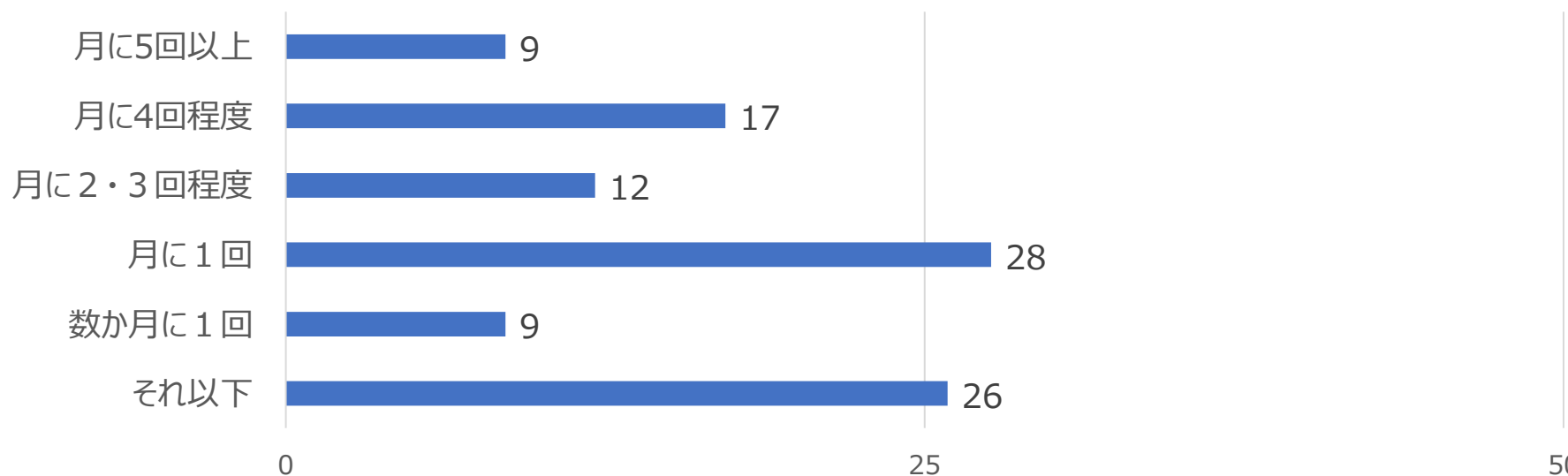


# 「給与前払サービス」の認知と利用経験

調査方法：インターネットリサーチ  
対象者：就労中で個人年収のある16才～60才の男女  
調査期間：2021年3月26日～28日  
有効回答数：1,035人



「給与前払サービス」を利用したことのある方にお聞きます。  
あなたはどのくらいの頻度で「給与前払サービス」を利用しましたか。  
N=58（給与前払サービスを利用したことがある人）



プレミアム商品券  
自治体キャッシュバックキャンペーン  
給付金

# 地域プレミアム商品券の利用経験

調査方法：インターネットリサーチ  
対象者：就労中で個人年収のある16才～60才の男女  
調査期間：2021年3月26日～28日  
有効回答数：1,035人

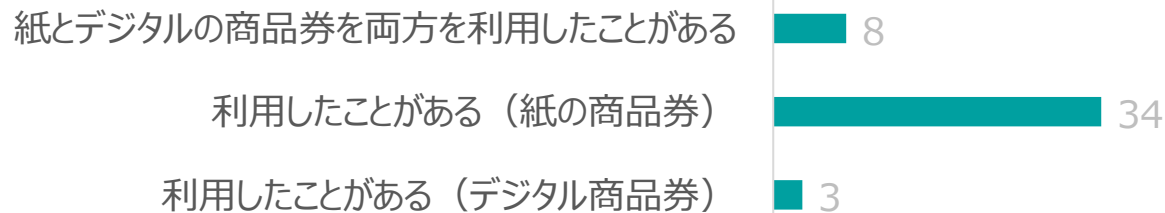
「地域プレミアム商品券」についてお聞きします。

コロナ禍において、多くの市町村が景気刺激策として、当該地域内での買い物に利用できる「地域プレミアム商品券」に取り組んでいます。

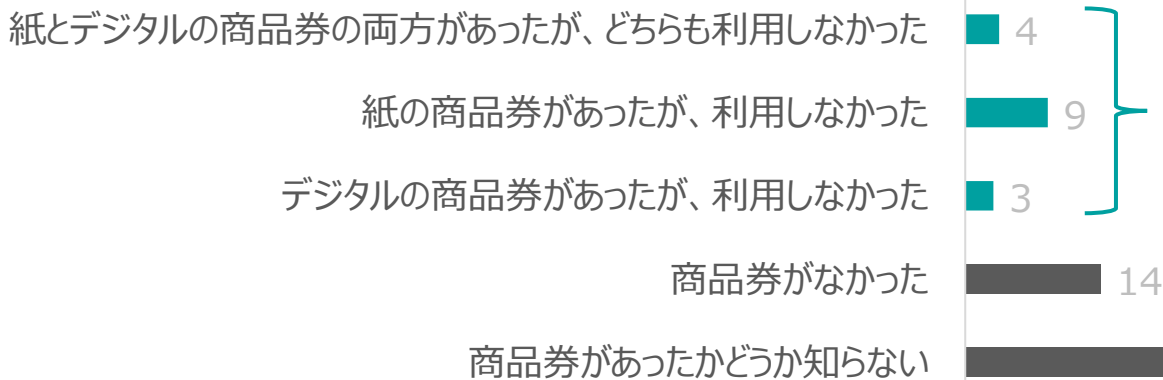
あなた自身は「地域プレミアム商品券」を利用したことがありますか。

N=1035（全員、複数回答）

## 広く普及しており、44%は利用経験あり デジタル商品券も利用経験者の4人に1人が経験あり



**44%は利用経験あり  
11%はデジタルの利用経験**



**15%は非利用を自ら選択**

**41%は商品券がなかったか、  
施策の有無を知らない**

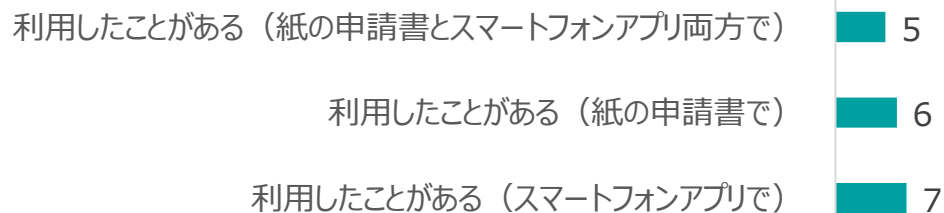
0 50 100

# 自治体キャッシュバックキャンペーンの利用経験

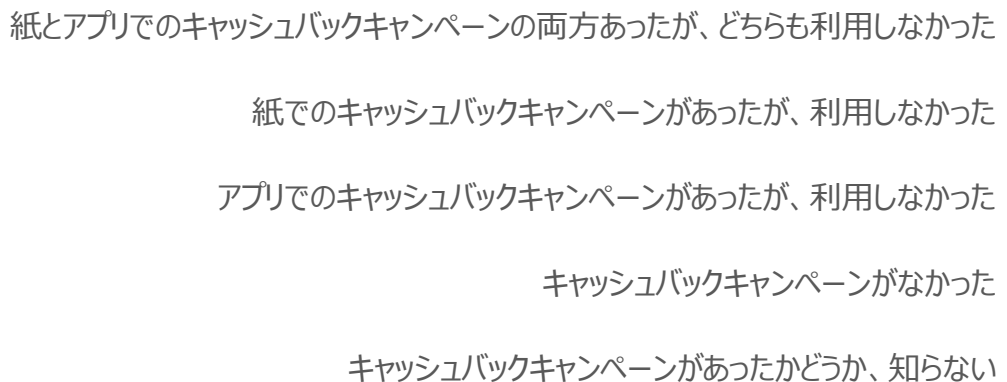
調査方法：インターネットリサーチ  
対象者：就労中で個人年収のある16才～60才の男女  
調査期間：2021年3月26日～28日  
有効回答数：1,035人

「自治体キャッシュバックキャンペーン」についてお聞きます。  
コロナ禍において、多くの市町村が景気刺激策として、買い物金額の一部を自治体が還元する「キャッシュバックキャンペーン」に取り組んでいます。  
あなた自身は「自治体キャッシュバックキャンペーン」を利用したことがありますか。  
N=1035（全員、複数回答）

## まだ広く普及しておらず、利用経験者は19% 当初からデジタル化している模様で利用経験者の半数以上がデジタルで経験



**利用経験ありは19%**  
**デジタルの利用経験は12%と、**  
**利用経験者の半数以上がデジタルを経験**



**8%は非利用を自ら選択**

**73%はキャンペーンがない地域か、**  
**施策の有無を知らない**

0 50 100

# デジタル版（アプリ版）と紙版の利用意向

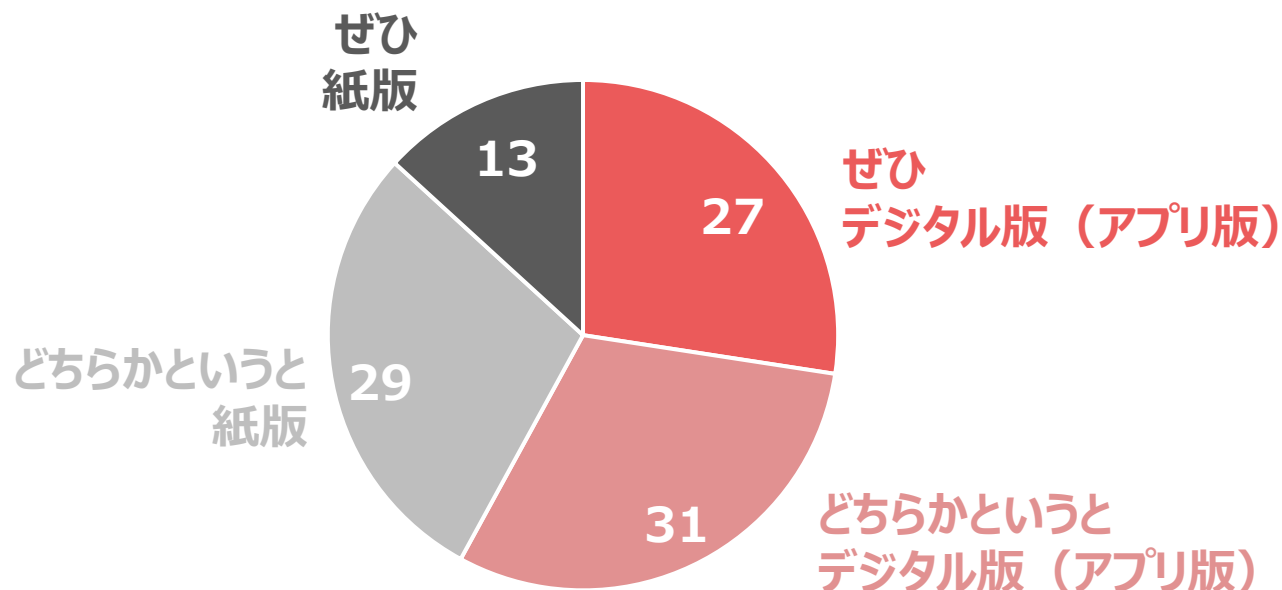
調査方法：インターネットリサーチ  
対象者：就労中で個人年収のある16才～60才の男女  
調査期間：2021年3月26日～28日  
有効回答数：1,035人

最近、「地域プレミアム商品券」や「自治体キャッシュバックキャンペーン」を、スマートフォンアプリで利用できるようにすることが増えています。  
紙の商品券の配布や、申請書の郵送などの手間が省けるという利点がありますが、スマートフォンに慣れていない人には使いづらいという可能性もあります。

**あなた自身は、デジタル版（アプリ版）と紙版のどちらを利用したいですか。**

N=1035（全員、複数回答）

**58%はデジタル版（アプリ版）を利用したい意向  
「ぜひデジタル版（アプリ版）」の利用意向は「ぜひ紙版」の2倍超**

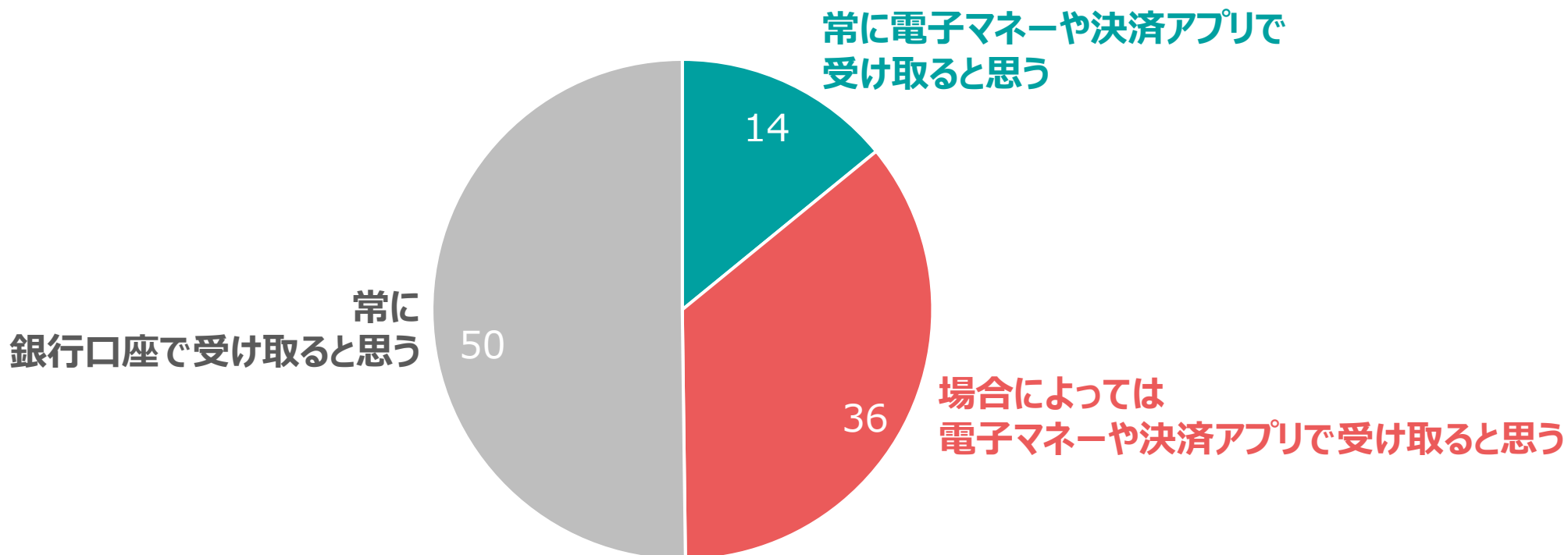


# 給付金の受け取り方法

調査方法：インターネットリサーチ  
対象者：就労中で個人年収のある16才～60才の男女  
調査期間：2021年3月26日～28日  
有効回答数：1,035人

コロナ禍においては、個人や事業者への給付金が支給されました。  
現在は給付金は銀行口座振込みが主流ですが、今後は電子マネーや決済アプリなどで受け取ることも考えられます。  
もし給付金の受け取り方法の選択肢が広まった場合の、ご自身の態度についてお答えください。  
N=1035（全員、複数回答）

## 半数は電子マネーや決済アプリでの給付金受け取りの選択肢を希望している







**Infcurion**